

中白ニユス

シネスコ版

高新ニユス No 380

新管線ニユス No 208

No. 545

30.6.26 30°

6600

一、災害地をゆく

——新潟地震・第二報

去る十六日、各地に被害をもたらした新潟地震。なかでも震源地であった新潟は、昭和石油の火災、信濃川の逆流など、市内は火ぜめ、水ぜめの大被害をこうむりました。

不安と恐怖におののく被災者に次ぎ次ぎと救援の手がさしのべられ、人々の顔にもようやく笑が見られるようになりました。しかし、市内はいまだいたるところ陥没と泥の海、政府

は本格的な救援作業にのり出しましたが、一日も早く被災者を救援し、被災者の生活を安定させるための一層の努力を要望するとともに、全国民の暖かい支援を必要としているので

す。

アイモ風土記

一、田代島

——宮城

宮城県牡鹿半島の沖合いに浮ぶ田代島。人口千二百のこの島は、昔から漁業で栄えてきました。だが今はどこでもがそうであるように、このあたりも魚はまったくなくなってしまうのです。

男は魚を求めて島を去り、大きな船に乗り込んでインド洋へ、また大西洋へと出て行きました。そして今は女と老人ばかりの島になってしまったのです。

だから消防隊もお祭りの獅子舞もすべてが女中心、男に負けぬ逞しい女達です。阿部キク子さんは結婚して二ヶ月。すでに夫はマグロ漁船に乗ってインド洋へ行ってしまうました。

夫が家に居るのは年に二ヶ月くらいと聞かされました。だがこの島で生まれ、育ったキク子さんはあたりまえのことと思っています。磯にはいつくばって採るわずかばかりの海の幸、

猫の額ほどのやせた土地にしがみつくと毎日、くったくのない若々しい彼女の表情の中にもこの島に生きることのきびしさをみる事が出来るようです。

625F

3/0F

3/5F

(製作) (配給)

中部日本新聞
北陸中日新聞

東京中日新聞
中日映画社
中部日本映画社